

Alvito

について



アルヴィット

アレンテージョ (Alentejo) 平原中央の高台に位置し、はるかに地平線を臨む広大な景色を見渡す優美な町、アルヴィット (Alvito) は、現在ではポザーダ・デ・アルヴィット (Pousada de Alvito) となっている宮殿を中心に発展しました。

白壁の家々は、アルヴィットが紛れもなくアレンテージョ地方の町であることをはっきりと示す外観を呈し、多くの家々のドアはマヌエル様式のアーチの枠組みが組み込まれ、17世紀の建造物であることを物語っています。

この町の起源はポルトガル王国の初期までさかのぼります。1327年にディニス王 (D. Dinis) によってアルヴィットは最初の憲章が授与され、その後1516年にマヌエル王 (D. Manuel) により確認されました。

1494年に建設が始まったカステロ・デ・アルヴィット (Castelo de Alvito) は間違いなく、この種の建造物としてはポルトガルで最も興味深いものの1つです。城を訪れることによって、この街の歴史に思いを巡らせることができます。この地方は長い間ムーア人に支配されたため、さまざまな歴史的建造物にムデハレス様式の建築物の特徴が明確に残っています (専門家でなくても小さなキューボラや白いペンキが塗られた円錐状の尖塔によって簡単に見分けがつかます)。16世紀初頭に起源を発するノッサ・セニョーラ・ダ・アスンサン教区教会 (Igreja Matriz de Nossa Senhora da Assunção) の外部の装飾にはムデハレス様式の建築物の特徴が明確に示されています。控えめなルネサンス様式の出入り口から中に入ると、壁は青と黄色が見事に調和した美しい模様のアズレージョ (azulejo) のパネルで覆われています。聖歌隊席の上には、彫刻と金箔が施された17世紀の木製の祭壇があります。要塞化された小さなサン・セバシチャン礼拝堂 (Ermida de S. Sebastião) のずらりと並ぶ面取りされたマーロンにもムデハレス様式の影響が見られます。内部は、ゴシック様式のアーチ型天井が音楽の天使を描いたフレスコ画で装飾されています。

アレンテージョの建築物の典型的な特徴である、絵のように美しい時計塔を持つ市庁舎にも目を奪われます。ミゼルコルディア教会 (Igrejas da Misericórdia) とセニョーラ・ダス・カンデイアス教会 (Igrejas da Senhora das Candeias) (後者には宗教芸術の美術館があります) の隣接する2つの教会や、この町の郊外にあり、もともとはイスラム教の礼拝所であったサンタ・ルジア (Santa Luzia) の小さな礼拝堂も同様に建築的価値のある興味深い建物です。